

2019年度 第3回 鋼構造座屈小委員会議事録

1. 日時 平成31年12月13日(金)14時00分～16時30分
2. 場所 建築会館・本会会議室305号室
3. 出席者 井戸田秀樹, 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 倉田真宏, 木村祥裕, 城戸將江, 田川浩, 竹内徹, 中澤祥二, 松井良太, 金尾伊織(記録)
(敬称略, 下線は欠席者)

4. 配付資料

- 03-01 2019年度第2回鋼構造座屈小委員会議事録(案) (金尾)
- 03-02 03-02 20191213座屈に関する諸問題2021第1章目次案 (松井)
- 03-03 1章-一次元部材モデル (松井)
- 03-04 1.3節資料_v0 (倉田)
- 03-05 諸問題2021-1.2節案 (田川)
- 03-06 座屈に関する諸問題2021_4章目次および4.3節案 (五十嵐)
- 03-07 座屈に関する諸問題2021第5章目次案 (金尾)
- 03-08 5章 骨組 (松井)
- 03-09 5章 骨組 (城戸)
- 03-10 鋼構造座屈設計指針に関する質問191211
- 03-11 質問191211回答案 (五十嵐)

5. 議事内容

資料03-01

- ・ 資料03-01に基づき前回議事録の確認を行い, いくつかの修正指摘があり, 承認された。

資料03-02～03-05

- ・ 資料03-02, 03-03に基づき, 松井委員より1章の目次および1.2節の内容について説明された。
- ・ 1.2節は解析手法, 1.3, 1.4はブレースの実現象を対象としたものであることが明確になるように工夫することが確認された。
- ・ 資料03-04に基づき, 倉田委員より偏心ブレースモデルについて説明された。
- ・ 各節の内容がイメージできるように, 節タイトルはできるだけ具体的なものとした方が良いという意見が出された。
- ・ 具体的な部材データに基づいて, 性能特性値などを表にまとめたものを提供することを確認した。
- ・ 資料03-04に基づき, 田川委員より偏心割込み板で接合された鋼管ブレースの耐力について説明された。
- ・ 松井委員, 田川委員, 倉田委員で, 1章の構成について再度検討することが確認された。

資料03-06

- ・ 資料03-06に基づき, 五十嵐委員より4章の目次案について説明された。
- ・ 4.2節については, 日本製鉄・小橋氏に執筆を依頼することを確認した。
- ・ ウェブ部分にスリットを入れた工法について, どの節に盛り込むか検討し, 竹中工務店・稲葉氏に執筆を依頼することが確認された。

- ・木村主査より「制振ブレース構面において変動軸力を受けるH形鋼梁の性能評価」について説明された。
- ・実構造物では、ブレースによって梁には軸力比0.3程度の軸力が入力される場合もある。ただし、その応力がスラブと梁にどのように伝達されるかは、現時点では明確でないことが説明された。

資料03-07～03-09

- ・資料03-07に基づき、金尾より5章の目次について説明された。
- ・前章までの部材での知見について、骨組の方でも可能な範囲で連携することを確認した。
- ・城戸委員の担当について、「柱」「骨組」のどちらが良いか検討することを確認した。座屈長さ算定では「部材」が適切であるが、Direct Analysis Methodでは、非均等骨組の場合は「骨組」として扱っていることから骨組でも良いと考えられることを踏まえて次回までに決定する。
- ・資料03-08に基づき、松井委員より、「はじめに」および局部座屈や部材破断を考慮した鋼構造骨組の地震応答について説明された。
- ・「はじめに」は、骨組被害の事例など一般的な内容を多く盛り込み、不安定現象が骨組に与える影響をまとめることを確認した。
- ・中澤委員に、骨組に関して執筆可能か打診することを確認した。

資料03-10, 03-11

- ・資料03-11に基づき、五十嵐委員より鋼構造座屈設計指針に対する質問およびその回答について説明された。
- ・指摘の通り間違いであるため、その旨回答すると共に正誤表に記載して周知することが承認された。

諸問題執筆に関する事項

- ・執筆協力者も目次に記載する。（ ）付で記載するか、委員と並列で記載するかは事務局へ確認する必要がある。
- ・図表番号は節ごとに付ける。例：図1.2.1 表3.3.1
- ・参考文献は章ごとにまとめる。例：1.1), 3.1)
- ・写真、図に関しては自作のものか、クレジットを必ず記載する。
- ・各章ごとに「はじめに」, 「おわりに」を設ける
- ・各節に「はじめに」, 「おわりに」を設けるかは執筆担当者に任せるが、「序」, 「まとめ」など言葉を変える。
- ・既往の研究を「はじめに」, 「おわりに」以外にもできるだけ引用しておく。
- ・各節8～10頁程度に収める。

次回委員会に向けて

- ・各章の目次を確定する。
- ・1章, 4章は全体の内容が分かる原稿を準備し、次回内容について検討する。

6. 次回小委員会予定

日時：2020年3月30日（月）14：00～17：00

場所：名古屋工業大学